

# 日本ベッド *Histry* vol.3

## ～英国のライフスタイルを取り入れて～

スリープ・スタジオ通信 (株)家具の望月 〒420-0869 静岡市葵区安倍町 30 054-272-1000 <http://www.sleepstudio.jp>

「眠る場所は、ベッド」。私たちがあたり前のように、こんなことを言うようになったのは、いつの頃からだったのでしょうか。明治時代、まだ日本が畳の生活、布団の睡眠環境しか知らなかった頃、ソファに座ってくつろぎ、ゆったりとしたベッドで心地よく眠る—そんな西洋のスタイルを日本に紹介した一人の日本人がいました。それが日本ベッドの創業者、宇佐見竹治です。約 100 年前、帝国ホテルで働いていた宇佐見は、海外からのゲストが多く訪れるホテルでの仕事を通じ、英国に触れ、ライフスタイルを垣間見て、洋風の生活というものに出会ったのです。



日本ベッド創業主・宇佐見

近年、彼が日々目にし、驚きを覚えた数々の”ライフスタイル”を綴った日記が発見されたのですが、つたない英語で書かれたページからは、当時の感動や衝撃がよく伝わってきます。この体験が心の奥深くに残っていたのでしょうか。宇佐見は数年後、イギリスへ渡って本場の西洋スタイルに触れることとなります。優雅で洗練された暮らしぶりと洋式家具の素晴らしさ。中でも「ベッドで眠る」スタイルに強く感化された彼は、これを日本の生活に持ち込みたい、そう考えたのでした。

帰国後、日本の暮らしに合うよう、ベッド&マットレスという寝具のスタイルを研究した宇佐見は、1926年、日本初のベッド製造会社「日本羽根工業社」（日本ベッドの前身）を興しました。「外観より、性能を」「睡眠環境をトータルに提案」をコンセプトに、機能と質とを徹底的に追求。日本初の羽根布団をつくるなど、ベッドだけでなく寝具や寝室空間のインテリアにもこだわっています。日本ベッドは今も、真に快適なベッドライフを追及し続けているのです。

創業当時、室内装飾を多く扱っていた日本ベッドは、日本に登場した豪華な客船や列車の客車、ホテルの内装を中心に手がける企業でした。やがて、ベッドの製造を本格的に開始した日本ベッドは、以降多くのホテルへのベッド納入で実績を重ねてきました。ホスピタリティが求められるホテル空間の中でも、ベッドは特にそのクオリティが重視される箇所。ゲストへのよりよいサービスを競うホテル業界にとって、まさに命ともいえる大切なアイテムでした。最高の寝心地、安全基準、ベッドメイクのしやすさ、納期やコストなど。日本各地の一流ホテルが求める基準を満たしてきた日本ベッドのクオリティは、現在の高品質な製品の礎となっています。

日本で本格的にベッドで眠る文化が普及し始めたのは、明治時代に入ってからのことになります。欧米の文化とともにベッド文化が伝えられると、まずは上流階級の人々の間で使われるようになりました。当時の日本では、寝具と言えば布団が主流の時代。布団文化からベッド文化への移行という大きなライフスタイルの変化をはじめ、湿気が多い住環境、寝心地の嗜好など、日本独特の生活習慣と向き合いながら、日本ベッドは日本人が好む寝心地とベッドの快適さの融合に挑戦し続けてきました。今日までの日本のベッドの歴史は、日本ベッドの歩みそのものと言っても過言ではありません。

(参照：日本ベッド製造株式会社 カタログ Vol.88、HP)